

授業科目名	エンドオブライフ看護学		担当教員	◎栗栖 千幸、千葉 恵子	科目ナンバリング NS366
必修	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		

【授業概要】

人生の最後の時間を家庭で家族とともに過ごしたいという患者が少なくはない。このコースは、在宅看護の一部として、緩和ケアと終末期のケアにおける看護師の役割について考察する。また終末期における緩和の方法論(薬剤その他の活用による)について論議する。

【達成目標】

1. 緩和ケア看護学の考え方について説明できる。
2. ターミナル期にある人の特徴について説明できる。
3. 緩和ケアを含む終末期ケアにおける看護の役割と方法について説明できる。

【履修条件】

在宅看護学を修得していること。

【授業計画】

[01] エンドオブライフケアの概要	(栗栖)
[02] エンドオブライフケアにおける患者・家族への看護	(栗栖)
[03] エンドオブライフにおける倫理的問題	(栗栖)
[04] エンドオブライフケアにおける看護の役割	(栗栖)
[05] 症状マネジメント	(千葉)
[06] 在宅における看取り・臨死期の看護	(千葉)
[07] 患者の意思決定を支えるコミュニケーション	(栗栖)
[08] エンドオブライフケアにおける退院支援	(栗栖)

【教科書】

指定なし

【参考書】

田村恵子(編)2019：終末期看護 エンド・オブ・ライフケア 経過別成人看護学④メヂカルフレンド社。

【評価方法・評価基準】

課題レポート(20%)・小テスト(20%)試験(60%)で評価します。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業で指定された事前課題にそって、在宅看護学・成人看護学概論・慢性期成人看護援助論の授業と統合しながら学習する。

事後学習：身近な人との別れの体験や死への思いや考えを想起し、課題について記述できるようにする。講義資料を基に、疼痛マネジメント、症状マネジメントについて復習を行うこと。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、V. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題については、成績評価後に返却する。

【備考】

エンドオブライフケア、緩和ケア、臨死期のケア、グリーフケア、ビリーブメントケアなど語句の意味と看護の役割を踏まえ、看護の領域と統合させ学習が蓄積できるよう取り組みましょう。